第85回日本皮膚科学会東部支部学術大会
ランチョンセミナー10

乾癬患者の更なる治療満足度向上を目指して



2021年9月19日 日 12:30-13:30

第4会場 ロイトン札幌 2F ハイネスホール

〒060-0001 北海道札幌市中央区北1条西11丁目

ハイブリッド開催

講演 1

座長 自治医科大学 皮膚科学講座 教授 **大槻 マミ太郎 先生**

バイオ時代の乾癬外用メソッド

演者 医療法人あゆみ桜会
皮ふ科眼科 くめクリニック 院長 **久米 昭廣 先生**

講演 2

座長 日本医科大学大学院 皮膚粘膜病態学 教授 **佐伯 秀久 先生**

クリニックにおける乾癬バイオ投与の試み

演者 高木皮膚科診療所 院長 **高橋 英俊 先生**

第85回日本皮膚科学会東部支部学術大会は現地とLive配信どちらからでもご聴講いただけるハイブリッド開催となりました。COVID-19流行状況により変更になる可能性がありますので、最新情報を下記WEBサイトよりご確認ください。

第85回日本皮膚科学会東部支部学術大会WEBサイト
https://eastjda85.jp/

本セミナー・ご講演に関するお願い

本セミナー・講演中の録音、録画、カメラ撮影、スクリーンショットはご遠慮ください。また、不正に撮影された写真等をインターネット（Twitter等）にアップロードすることも禁止させていただきます。ご理解、ご協力の程、よろしくお願い申し上げます。

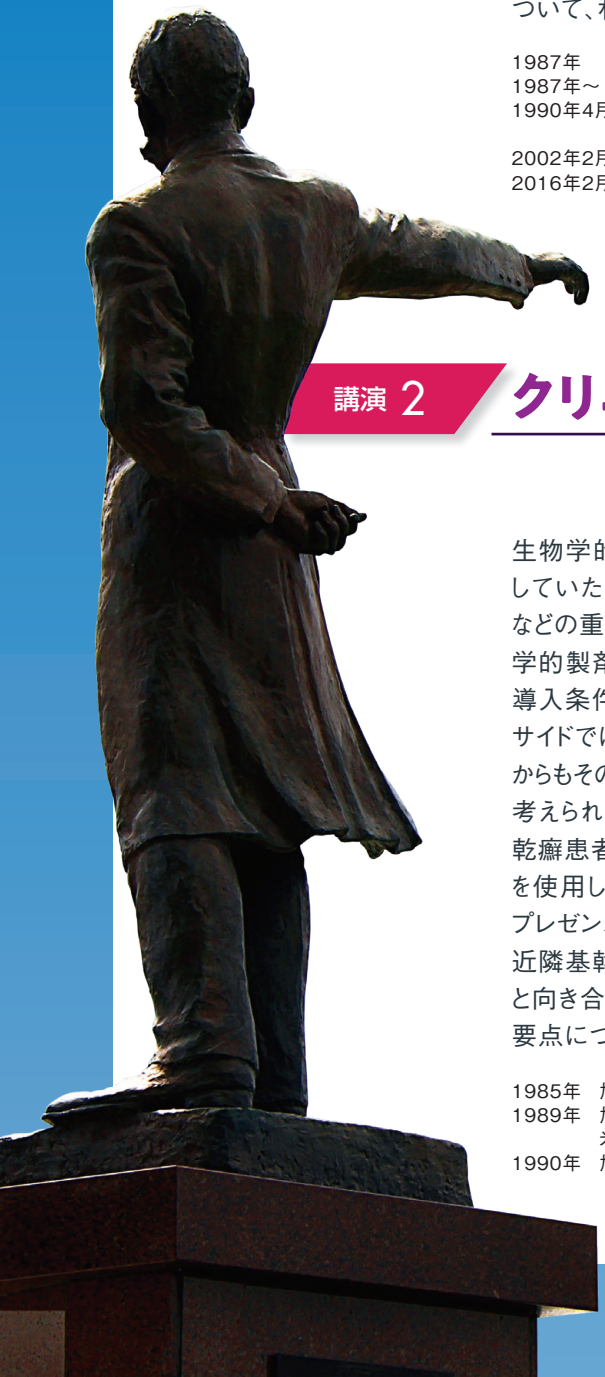
共催：第85回日本皮膚科学会東部支部学術大会／マルホ株式会社／ノバルティスファーマ株式会社

講演 1　バイオ時代の乾癬外用メソッド

医療法人あゆみ桜会 皮ふ科眼科 くめクリニック 院長　**久米　昭廣 先生**

乾癬患者の症状は、その性質、頻度、および重症度いずれをとっても様々である。さらに、悪化要因としての外部刺激（例えば、ストレス、生活習慣要因、環境）の存在、治療のアドヒアランス、併存疾患および疾患の変動性も加わることで多彩な臨床像を呈することになる。我々皮膚科医師は、そのような様々な乾癬患者が抱える苦難に立ち向かうために、エビデンスと患者の価値観、好みを統合させ、双方向コミュニケーションによって良好な意思決定を導くこと、すなわちShared Decision Making（協働意思決定）の考え方に基づき、患者の生活の質と健康目標を達成するよう努める必要がある。そこで、生物学的製剤に代表される革新的な治療の恩恵をより多くの患者さんに知ってもらうことはもちろん大切である。一方で、古典的な外用療法は、乾癬患者に治療への理解を促しつつ、医療者が患者自身をより理解しようとするプロセスとして、相互の信頼関係構築における重要な意味があることを忘れてはならない。本セミナーでは、生物学的製剤が全盛である今の時代にもフィットした、配合外用薬を中心とした満足度の高い治療を実現するための外用療法について、私見を交えて考察したい。

1987年　鳥取大学医学部卒業
1987年～　大阪大学皮膚科教室入局後大阪大学医学部附属病院で勤務
1990年4月～　市立堺病院皮膚科で皮膚アレルギー全般、下肢静脈瘤
悪性腫瘍などの手術、治療に従事
2002年2月～　堺市鳳で くめ皮ふ科クリニックを開業
2016年2月～　『くめ皮ふ科クリニック』から『皮ふ科眼科 くめクリニック』に名称変更



講演 2　クリニックにおける乾癬バイオ投与の試み

高木皮膚科診療所 院長　**高橋　英俊 先生**

生物学的製剤が乾癬に使用可能になり今年で12年目となり、今まで治療に難渋していた広範囲に皮疹が及ぶ尋常性乾癬、関節症性乾癬、全身性膿疱性乾癬などの重症乾癬患者に対して福音をもたらしたことは周知の事実である。また、生物学的製剤は一部の基幹病院での導入しか認められていなかったが、クリニックでの導入条件が緩和されたことで、アクセシビリティの改善が図られている。しかし、患者サイドではいまだに生物学的製剤について認識されていないこと、また、医師サイドからもその使用経験がないことから生物学的製剤を使用に踏み切れないことが多いと考えられる。当診療所では、十勝エリアという広範囲な地域から受診される重症な乾癬患者の疾患コントロールと利便性の向上を目的に、2014年から生物学的製剤を使用している。クリニックでのバイオ投与の試みは、皮膚科クリニックが地域でプレゼンスを発揮しつづけるために多くの学びが得られる機会と考えている。ただし、近隣基幹病院や多職種との連携構築を進めながら、日常診療との両立という課題と向き合わなければならない。本セミナーでは、その試みから得られた成功のための要点について考察を交えて紹介したい。

1985年　旭川医科大学卒業
1989年　旭川医科大学大学院卒業
米国オレゴンヘルスサイエンス大学リサーチフェロー
1990年　旭川医科大学皮膚科助手
1992年　名寄市立病院皮膚科医長
1993年　旭川医科大学皮膚科助手
1996年　旭川医科大学皮膚科講師
2014年　高木皮膚科診療所院長